



介護認定調査だより (No.7)



いつもご覧いただきありがとうございます。

今回は(2-4)「食事摂取」を取り上げます。1回の介助に手間や時間がかかる項目です。

eラーニングより



【2-4 食事摂取】基本調査で、どの選択肢を選択すればよいですか。

1日3食で、通常は介助なしで行っている。ただし、毎日朝食の際は、最初の数口は、介助者が口まで食事を運んでいる。(ただし、不適切な状況にはないものとします。)

- ① 介助されていない
- ② 見守り等
- ③ 一部介助

eラーニング【解説】【頻度について】

基本調査は、一定期間(調査日より概ね過去1週間)の状況において、より頻回な状況や日頃の状況で選択します。特記事項には、その日頃の状況や介護の手間等について、具体的な内容を記載します。 正解は①



特記事項記載のポイント

食事摂取は、実際の介護時間において長時間であり、個人差も発生しやすいことから、介護認定審査会の判定において、重要な意味を持つ場合があります。

朝・昼・晩や体調によって、介助の内容が異なることがあります。

「一部介助」の選択には時間の長短は問いません。

食事	特記(例1)	特記(例2)
朝食	最初の数口のみ 介助される	自分で食べる
昼食	自分で食べる	最初の数口のみ 介助される
夕食	自分で食べる	最初の数口のみ 介助される

選択肢は「介助されていない」

選択肢は「一部介助」

定義に含まれない介護の手間を聞き取った場合は、特記事項に記載しましょう。(準備、配膳、後片付け、食べこぼしの掃除や、エプロンをかける、椅子に座らせる等)



同じ選択肢でも特記事項でこのような違いがあります。
手間の量の違いをみてみましょう。

手間が **少ない** 一部介助

ほとんど自分で食べるが、器のすみに残ったものは介護者がスプーンですくう介助が行われている。

手間が **多い** 一部介助

自分で食べようとするが、数口でやめてしまうため、ほとんどを介助している。

手間の量

同じ「一部介助」でも、特記事項を記載することで、より具体的な介護の手間の全体量が、審査会に伝わります。

※ 食事摂取とえん下は〔評価軸〕が異なります。

食事摂取 **介助の方法**

えん下 **能力**(「できる」「できない」で評価)

基本調査の選択、特記事項の記載に気をつけましょう！

 バックナンバーもホームページ掲載中！是非、お役立て下さい。

<https://www.city.nara.lg.jp/site/kaigohoken/50068.html>



 「eラーニングシステム」未登録の方は、下記奈良市ホームページをご確認ください。
※奈良市ホームページ内での分類の変更にともない、アドレスが変わりました。

<https://www.city.nara.lg.jp/site/kaigohoken/5995.html>



奈良市 認定調査 だより

検索

